

14. 金山から帰路まで

● 8月20日（土） かなやま湖からマオイの丘へ 晴

・昨夜は7時過ぎに寝てしまったので、今朝は3時に目が覚め4時起床。昨日とは打って変わって雲が多い。朝食の7時まで、パソコンを打ったり日記を書いたりして過ごした。目玉焼き、煮物、魚に大根おろしと純和食でGood! 最後はコーヒーでシメ。朝食中に雲が切れて太陽が顔を出してきた。今日も一日暑いな!

・23日に帰路につくがそれまでは山に登る予定もないし、あと3日どうやって時間を潰そうか。ここから近くにトナムがある。トナムは思い出の深いところ、毎年のように寄っているし今年も寄ってみよう。

・9時前に快晴のかなやま湖を後にしてトナムへと向かった。ナビを頼りに走ったら、国道38号線を回らずに、まっすぐ南下して幾寅峠を超える一般道を走らされた。これがなんと幾寅峠をはさんで前後10km、延々20kmが未舗装の砂利道だ。林道での砂利道は当たり前だが、一般道で砂利道は珍しく、まだこんな道が残っているのかと思い嬉しくなった。



・トナムは、夏休み最後の土曜日ということもあるのか車がいっぱいだった。駐車場も満杯状態。それも殆どが「わ」ナンバーのレンタカー。ホテルの中も若いカップルや子供連れ家族で溢れていた。一時経営が行き詰まったトナムだが、健在であることが確認できて嬉しかった。またいつかゆっくり遊びに来たいなと思った。



・トナムから占冠・日高と走り夕張へやってきた。西へ向かうに従ってどんどん天候が悪くなり、夕張ではとうとう本降りの雨になった。

・田中義剛が一昨年夕張に開園した「花畑牧場」。開園時は来園者で溢れんばかりの混雑を見せていたのに、今日来てみると、雨とはいえ土曜日だということのに広い駐車場に車が数台、人もいなくてひっそりとし

ている。1時間も並ばなければ買えなかった売店は、買う人も店員もいない。ブームが去ったとはいえものすごい寂れようだ。ガラス越しに製造工程を見せてくれていた工場も完全に停止して、鍋釜はきれいに片付けられていた。「盛者必衰の理」を肌で感じたようで何か悲しくなった。希望の丘のレストランでは数人が食事をしていたが、その他の施設にはほとんど人がいない。



工場も停止し人影も無い

・「映画ギャラリー」は何回見てもいい、

「映画ってやっぱりいい」ね。「タケシ美術館」は毎回北野タケシの絵の才能に驚かされる。何枚かの絵が昨年のもとは架け替えられているようで、寂れた夕張でここは管理されていることがわかり安心した。「所ジョージの博物館」が一番奥にあるので、それこそ人が居ない。でも昨年と展示物が変わっているような気がする。

夕張には3回も来たが今年で最後かもしれないな。

・何回も通り走り慣れた道をマオイの丘へ。15時過ぎに着いたが、ここは快晴だ。レストランの様子を見に駅舎に入ったら、本間武男の「シルクスクリーン版画展」をやっていた。「礼文／利尻岳」の絵が気に入って買ってしまった。私が絵画を買うなんて、生涯最初で最後の「絵の買い物」だと思う。

・夕食はレストランで懐かしい「ぎゅうぎゅう詰め丼」。久しぶりの牛肉が旨かった。

● 8月21日（日）

千歳空港で買い物

晴

・朝5時半に目が覚めたら日差しが眩しい。今日は千歳空港でお土産の買い物だ。車内を整理して帰り支度をしていたら雲が出てきて寒くなってきた。今回は食糧も飲料もかなり残っている。例年と比べて何が違うのだろうか？

・お盆休みも終わり夏休みも後半のためか一時に比べて車が少なく静かな朝だ。それにしてもなんでこんなにキャンピングカーが多いのだろうか。ざっと見ただけで4台も止まっている。

・そろそろ鮭が登り始めるというので道の駅「サーモンパーク千歳」に寄って千歳川をしばらく眺めていたが、残念ながら鮭の影は見られなかった。

・千歳空港はリニューアルしたようで、かなり広くなり店も品物も多くなった。毎年の行事とはいえお土産の買い物には頭が痛くなる。

・昼はウトナイ湖に寄った。天気は晴れたり曇ったりで涼しい。ウトナイ湖には白鳥が数羽休んでいた。



ウトナイ湖には白鳥が数羽休んでいた

・もう料理するのも面倒くさいので昼食はレストランでミートスパゲッティを食べた。道の駅隣接の環境省「野生鳥獣保護センター」へ入った。木造 2 階建ての立派な建物、階段を登ればいいのにエレベーターまでついている。とにかく金はかかっているが展示物はどってことない。

・明日は小樽泊まりだから、毎年お世話になった千歳・恵庭は今夜で終わりだ。まずラフォレの温泉でゆっくりと長旅の疲れを癒し、恵庭のフード D で夕食を買い込み、道の駅「えにわ」に駐車。ここはいつも混雑しているが、今日は日曜日で天気がいいためかより一層混雑している。5時半に店が閉まって、日が落ちると車も減って急に寂しくなる。さっき買ってきた寿司を肴にビールで乾杯。風呂上がりに涼風が爽やかだ。

ここもよく来たな！ 来年も来るのかな？
今年で最後かな？ などと思案しながら 7 時ごろ就寝。



毎年お世話になった道の駅「花ロードえにわ」

● 8月22日（月）

恵庭から小樽へ

晴

・北海道の天気もやっと安定したのか、朝起きると爽やかに晴れている。帰るときになって安定するとは皮肉なものだ。

・朝食がすんで車の整理をしていると「湘南はどちらからですか」と声をかけられた。近所の道営アパートにお住まいの男性で、10年前に藤沢から越してきて、湘南が懐かしい。昭和 12 年・富士宮生まれだとのこと。いろいろ共通点があり 30 分ぐらい立ち話に花が咲いた。定年で北海道に来たが、物価は安いし家賃も安いし、環境もいいし生活をエンジョイしているという。今回の旅で初めて会話ができる人だ、会えてよかった。何しろ今年の道の駅は、キャンピングカーがいっぱいで、何の目的もなくただ道の駅を渡り歩いている連中が多くて、会話がなくて面白くなかった。

・今夜の宿、小樽に向けて出発した。真っ直ぐゆけばすぐ着いてしまうので途中いろいろ寄り道をしながら・・・。

・117号線を西に向かい、まず「えにわ湖」の標識に従って右に細い道を入ったが、どん詰りに広い駐車場があるだけで、湖なんてどこにも見えないし湖への道もない。117号線に戻り、ラルマナイ川沿いに西へ。このあたりは滝が多く、ラルマナイの滝、白鳥の滝を見てから国道 453 号線を北上、



ラルマナイの滝

札幌方面に向かって走った。途中、「国設滝野すずらん公園」というのがあったので寄ってみたが、入場料 400 円も取るので門前でUターン。

気がつくところの道は2週間前に空沼岳に登ったときに走った道でそれを逆に走っていた。



有島武朗邸

・その時気になっていた「札幌芸術の森」へ寄った。駐車料 500 円取られたが、すずらん公園よりはよっぽど良い。広い敷地にいろいろな建物が建っている。ここに移設されたという有島武朗邸は立派な家で、当時の作家としてはずいぶん豪邸に住んでいたもんだな、金持ちだったそうだ。

立派な美術館があったがその前を素通り、木工やガラス細工などの工房があり、園の奥には北海道交響楽団の基地になっている大ホールや多数の練習室などがある立派な音楽堂が建っていた。

まああ広くてなかなか素晴らしい環境の「芸術の森」だった。

ただ日差しが暑くて広い園内を大汗をかいて歩いた。



立派な美術館

・札幌の街中を抜けて何回も通った小樽への道を走り、3時前に天狗山の麓のユースホテル「ヴィラマウンテング」に着いた。受付が5時からというのでオーナーを電話で呼んで受け付けてもらい無事 203 号室に落ち着いた。夕食は6時から。食堂へ行ったらなんと客は私一人。ホストは若くておとなしいお兄さんで「長万部の大学に行っている」という。「じゃあ理科大か?」「はいそうです」それ以上の会話は無い。一人寂しくテレビを見ながらの食事だ。以前泊った時はもう少し客がいたのに・・・でもここの食事はいい！ 牛シャブ、お造り、鮭のチャンチャン焼き、ビールが旨い。

今回の北海道山紀行の最後の夜はこうして、ひとり寂しく美味しい食事をいただきながら無事暮れた。

● 8月23日（火）

小樽から帰途へ

曇

・旅の終わりの朝は、曇り空の小樽のユースホテルで明けた。今日は10時30分小樽港発のフェリーに乗って帰途につく。朝食は頼んでないのでドアをそっと開けて7時にユースホテルを出た。セイコーマートで朝食と、船中の食糧を調達してから港へ着くともう乗船受付をやっていた。

・乗船までたっぷり時間があるので、名残惜しく小樽運河へ出かけ、散歩したり写真を撮ったり。まだ朝早いので路上駐車お咎めなし。

また来年ここへ来るのかな？！



・予定通り9:15乗船開始。S寝台に荷物を置いて、例のごとくすぐに風呂へ走った。なんと風呂はガラガラ、こんなにすいているには初めてだ、拍子抜けした。風呂上りの火照った身体で、ビールを飲みながら、十勝ワインを手を持って甲板で出航を待つ。天気は良くない。曇った空から時々ポツポツと降ってくる。



・10時30分船は港を離れ新潟へ向けて出航した。港には切れたテープの端をしっかりとつかんでいる母と子とおばあちゃんが。船でもう一方の端をつかんでいるのは誰だろうか？ここからは見えない。これで小樽に来るのはもう最後かな。何ともいえない感慨で涙が出てきた。

● 終章 ●

*今年の北海道は8月だったが雨の日が多く夏休みで混雑していて時期的によくなかった。芦別岳、ウペペサンケ山は登れたが、ニペソツ山は天候不順で途中で引き返したし、予定した大雪山系や暑寒別岳へは時間がなくなり入ることも出来なかった。もう5回も続けて来ている北海道、殆どの山に登ったし、今年で終わりとしようか。ニペソツ山は登りたいし、5年間で登った山を整理して再度登る山を選んで締めくくろうか。

そんなことを考えながら、今年の北海道山紀行を終了した。

2011年 北海道山紀行

*** 完 ***